

# 教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

岩出市立上岩出小学校  
教諭 中尾 純

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研修・研究を行い、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とし、実施されている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修期間中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修への参加等をとおして、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

研究を進めるうちに、学んだことの理解を深めるためには、物事を様々な方向から捉えることが重要であると考えようになった。また、自分が学び理解したことを伝えようとすると、理解していたつもりが自分の中でまだ整理されておらず、うまく伝えることができないことがあった。そこで、自分自身の理解を捉え直すため、助言を得ながら、何が不足しているかに気づき、伝わるように表現を選び、改めて自分の考えを整理するということを繰り返し行った。そうすることで物事を様々な方向から捉えられるようになり、自分自身の学びの過程が出来上がっていったと思われる。

このように、多様な情報を取り入れることや、伝えるために考えを整理することの重要性を意識することは、次期学習指導要領における「対話的な学び」の視点を意識することにもつながった。

また、修養として様々な向上トレーニングや研修講座を受講したことをもとに、情報を集めたり、研修員同士で考えを出し合ったりすることで、考えが深められていった。

1年間、研修員同士で学び合い助け合った経験から、学校現場においても同僚性を育むことを大切にしながら、今後も学び続ける教師として教育の推進に全力を尽くしたい。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等の作成、模擬の授業実施	・授業・研修研究計画を立て、第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・和歌山教育実践研究大会で発表	・研究報告書、資料の作成
所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」					
修養	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング</li> <li>■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講</li> <li>■初任者研修, 10年経験者研修等聴講</li> <li>■学びの丘指導主事等による研修員研修</li> </ul>				

図 研修の概要